

～環境学館いずみボラティアスタッフによる「いずみガイド」～

3月16日(日)いずみ理科教室 「水のふしぎパート2」



私たちが生きていく上で水は欠かせないものです。水道水、井戸水、湧き水などさまざまな水を口にしたことがあると思いますが、はたしてきれいな水はどのようにできるのでしょうか。

今回の理科教室では“水”について、9人の子どもたちとともに学習しました。まず、水の性質の基準となるpHを調べました。水道水・高麗川の水・いずみ裏のビオトープなどは、pH 6～7のあたりでほぼ中性ですね。次に、白い粉3種類を水道水入りのコップにそれぞれ混ぜ、ちょっと味見です。「しょっぱい!」「にがい!」「すっぱい!」驚きましたね。大丈夫、害はありませんよ。pHをみると、にがい重曹は7.5でややアルカリ性、すっぱいクエン酸は2.2で強い酸性と、水の性質が変わりましたね。一方しょっぱい食塩水、卵を入れると最初は沈みましたが、食塩を入れ続けると浮いてきました。不思議ですね。

さて、いよいよ水をきれいにする実験です。キャベツを煮て作った青い水の、においをかいで見ましょう。講師の金子先生は花粉症で大変でしたが、みなさんは大丈夫ですね。ちょっと変なにおいがする。この水をきれいにしてみましょう。「無理だよ」との声もありましたが、さてどうかな。活性炭に水を通すと、色が透明になりました。においも炭のにおいが少しするぐらいです。にごったビオトープの水もきれいになるかな?泥を分離する薬を入れしばらく置いた後、ペットボトルに砂と小石をいれた特製ろか装置に入れてみましょう。どんな水がでてくるかな?「きれいになってる、すごい!」水道水をつくる浄水場も、山からの湧き水も、今回の実験とほぼ同じ原理で水をきれいにしていきます。今回の実験で、水について今まで以上に身近に感じましたか?

今後も水を大切に使いしていきたいですね。(H.I)

3月のデキゴト



予定通り8:40、いずみをバスで出発。9:40 森林公園着。一行アースフレンズのメンバー10人、保護者1人。環境学館の職員、ボラティア5人。中央口から彫刻広場を過ぎ、目指す緑化公園の学習室へ。



早速ピザの生地作りはじまる。小麦粉などの材料をこねる。全員が交代でボールの中の材料をこねたり、叩きつけたりすること約30分です。つきたてのオモ手のようなになる。そこでラップして約40分、発酵の時間となる。

この間を利用して、本日のもうひとつのテーマである葉っぱ利用のプリント作製。葉の裏側にローラーでインキを塗り、塗られた面を、コースターやシオリ予定の紙に押しあて、転写してはがすとできあがり。しおりには穴をあけ、リボンを通すと見事な完成!この工作は5月24日(土)の「いずみDAY」の体験コーナーに登場します。ぜひお友だちをさそって参加、体験してくださいね。



さて、葉脈プリントの完成で、ピザ作り再開。生地を丸いプレートに、3人1組で延ばす。トマト、ピーマン、ウィンナー、ベーコンなどを切り刻み(みんな包丁さばきが、まあまあうまいんだ。「家でやってるよ!」、いよいよピザソースを塗った上に、刻んだ具やチーズをトッピング!賑やかに楽しい光景。そして2時間前から熱していた屋外の石釜に運ぶ。窯入れ役は公園のインストラクターの白石さん。この人身長193センチ!!

約4分で焼きあがり!

サンキュー!ありがとうございます!

わいわい楽しく外のガーデンテーブルで1トレイ3人で切り分けて、食べる、食べる!みんな満腹の表情。

さあ、終わりはトレイの洗いだよ。全員が交代でタワシを使ってせっせとがんばって洗ったね。あたりまえのことだけど、えらいよ!予定時間通りに2:40いずみに帰着。(I.S記)

